

インド準備銀行、政策金利の引き下げを決定 2月、4月に続き3会合連続の利下げ

インド準備銀行（RBI、中央銀行）は6月6日、政策金利を0.50%引き下げて5.50%とすることを決定しました。利下げは2月、4月に続き3会合連続となります。RBIの動向、市場の反応および今後の見通しについて解説いたします。

➤ 市場予想を上回る、0.50%の引き下げを決定

金融政策について：

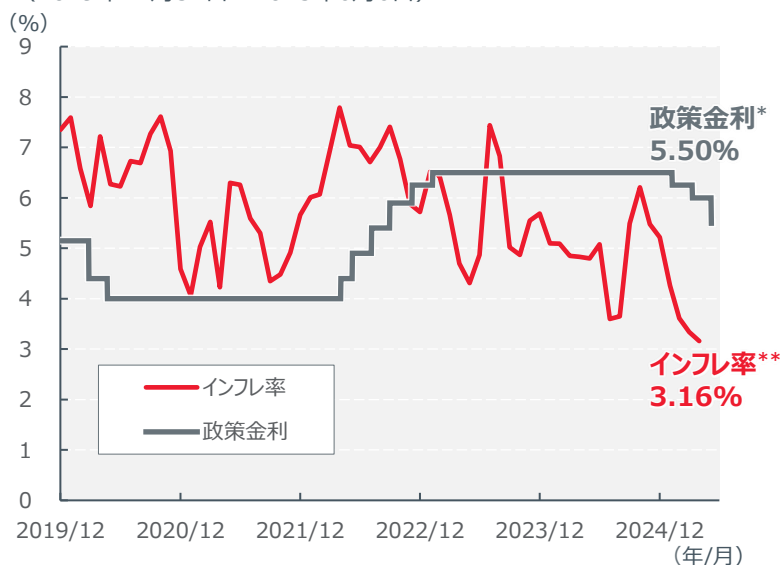
- RBIは定例の金融政策決定会合（6月4～6日）を開催し、最終日の6月6日に政策金利であるレポ金利をそれまでの6.00%から**0.50%引き下げて5.50%**としました。利下げは、2月、4月に続いて、3会合連続となります。
- 5月13日に発表された4月のインフレ率（消費者物価指数（CPI）上昇率）は前年同月比+3.16%と、**5年9ヵ月ぶりの低水準**を記録し、RBIのインフレ目標中央値である4%を下回りました。こうした状況を受け、市場では**0.25%の利下げ**が予想されていましたが、実際には**0.50%の利下げ**となり、サプライズとなりました。
- また、預金準備率（銀行に対し中央銀行への預け入れを義務付けている預金の割合）を1.00%引き下げ3.00%としました。この引き下げにより2025年末までにおよそ2.5兆ルピーの流動性が供給される見込みです。
- 声明文では、インフレ率がRBIの目標範囲内（4%±2%）に収まっていることを踏まえ、**成長支援のための金融緩和が可能**と判断したことが利下げの主な理由としてあげられています。また、世界経済の不確実性や地政学的リスクを考慮しつつ、**内需の強化と投資促進**を図る方針が示されました。

経済成長見通しについて：

- RBIは、2025年度（2025年4月～2026年3月）のインドの実質GDP（国内総生産）成長率見通しを**前回と同じ+6.5%に据え置き**ました。農業の豊作のほか、サービス業の堅調な拡大、都市部・農村部における民間消費の回復、投資活動の活性化、財・サービス輸出の回復を成長の要因としています。さらに、南西モンスーンによる降雨量が例年を上回る見通しであることから、農業と農村需要のさらなる拡大が期待されています。一方で、地政学リスク、世界貿易の不確実性、気候変動などが成長の下振れリスクとして指摘されています。

【政策金利*とインフレ率**の推移】

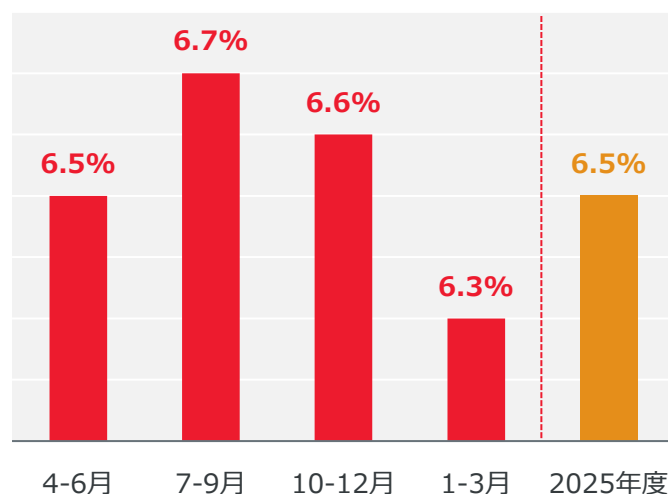
（2019年12月31日～2025年6月6日）



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
*レポ金利、**消費者物価指数（CPI）上昇率（前年同月比）、同項目のみ月次、新基準（2012年=100）による統計を使用。2025年4月まで。

【実質GDP（国内総生産）成長率見通し】

（2025年4-6月～2026年1-3月、四半期、2025年度通期）



出所：RBIのデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

○この資料の最終ページにご留意いただきたい事項を記載しております。必ずご確認ください。

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシュアランス社とは関係がありません。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商） 第379号／加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

250609(02)

(1/2)

インフレ動向について：

- インフレ率は過去6ヵ月で大きく低下し、2024年10月にはインフレ目標の上限（6%）を上回っていた水準から、現在は大きく下回る水準になっています。また、世界経済の減速に伴う国際商品価格の下落を背景に、コアインフレ率も引き続き穏やかな水準を維持すると見込まれています。これを受けて、RBIは**2025年度のインフレ見通しを、前回の4.0%から3.7%へと下方修正しました。**

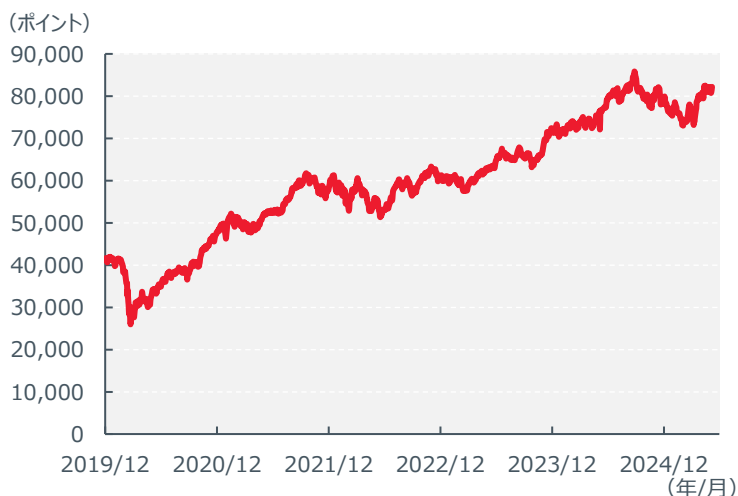
➤ 市場の反応と今後の見通し

- 市場は政策金利の引き下げを予想していましたが、**0.50%の引き下げ幅は市場予想を上回る**ものであり、成長志向であるとして**市場は好感**しました。6月6日、代表的な株価指数であるSENSEX指数は前日比+0.92%、インドルピーは対米ドルで0.19%の上昇となりました。10年国債利回りは前日比+4bps（0.04%）の6.29%となりました。
- RBIのマルホトラ総裁は、インフレ率が目標中央値を下回る水準にまで大幅に低下した一方で、世界的な経済環境の不確実性が高まり、成長見通しが厳しくなっていることから、金融緩和を継続するだけでなく、経済成長を支援するために利下げを前倒しで実施する必要がある、と述べました。
- 2025年2月以降の累計1.00%の利下げを経て、RBIが**金融政策スタンスを「緩和的」から「中立」へと変更**したことを踏まえると、さらなる**利下げの余地は限定的**で、今後の金融政策は経済指標次第と考えられます。一方、金融政策のスタンスの変更は、将来の政策に柔軟性を持たせ、市場の過熱感を避けるための戦略的な動きである可能性もあり、インフレと国内経済の動向次第では、**年内に小幅な利下げの可能性もある**との見方もあります。

※ 次回の金融政策決定会合は2025年8月（4～6日）に開催予定。

【SENSEX指数の推移】

（2019年12月31日～2025年6月6日、日次）



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
※プライス・リターン、インドルピーベース。

<当資料に関してご留意いただきたい事項>

○当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。○当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。○当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。○当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。○当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。